

## デイリー・ジーザス・ニュース #340

### イエスの復活と永遠の宣教

#### 40日間にわたるイエスの復活の出現がさらに6回

#### イエスの6回目の復活の出現：トマスと使徒たちへ ヨハネ 20.24-31

=====

24 十二弟子のひとり、ディアデモ（デズデモ）と呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、弟子たちと一緒にいませんでした。25 それで、ほかの弟子たちがトマスに、「私たちは主を見ました」と言い続けました。

しかしイエスは彼らに答えて言われた。「あの方の手に釘跡を見なければ、また、釘が打たれたところに私の指を入れてみなければ、また、私の手をあの方のわきに刺してみなければ、私は決して信じません。」

26 一週間後、弟子たちは再び家の中にいた。トマスも一緒にいた。戸はまだ閉ざされていたが、イエスは来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。

*「平和があなたと共にありますように！」*

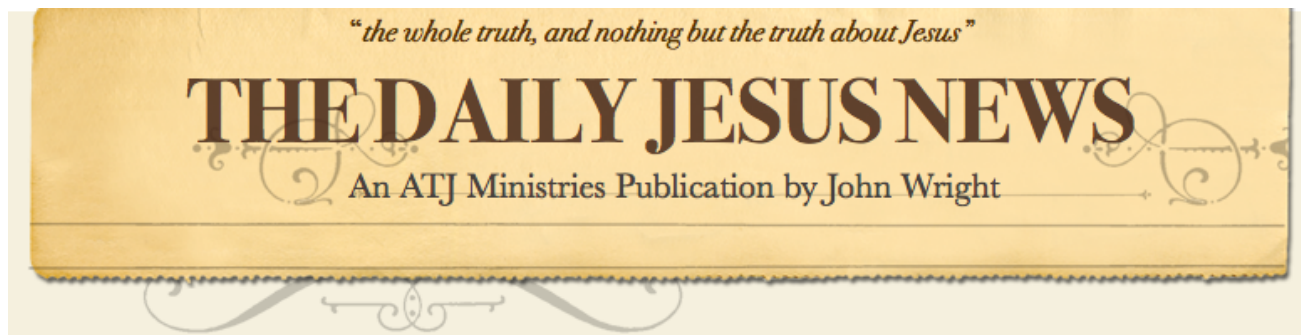
27 それからイエスはトマスに言われた。

*「あなたに命じる。あなたの指をここに置き、私の手を見なさい。手を伸ばして私の脇腹に突き刺しなさい。あなたを不信者にするのはやめ、信じるように。」*

28 トマスはイエスに言った。「わたしの主、わたしの神よ。」

29 すると、イエスは彼に言われた。*「あなたは私を見たので、信じたのです。見ないのに信じた人は幸いです。」*

30 イエスは弟子たちの前で、このほかにも多くのしるしを行われたが、それはこの書物には永久に記録されていない。31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子、メシアであることをあなたがたが信じるためであり、また、信じることによって、イエスの名によって永遠の命を得るためである。



=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの上の部屋
タイムライン	4月 ( 39ヶ月目 )
イエスの生涯の文脈	第9段階: イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの復活と40日間の宣教
	40日間にわたるイエスの復活の6回の出現
タイトル:	イエスの6回目の復活の出現: 上の部屋にいるトマスと使徒たちへ

イエスの六度目の復活は、福音書の物語の中で、イエス・キリストの神性についての最も力強い告白をもたらしました。それは教会時代の規範的な告白となり、今日でも私たちの信仰の核となっています。イエスの復活は、それを知るすべての人々にこれをもたらすことを意図していたのです。

復活祭の日曜日にイエスが5回現れてから1週間が経ちました。新約聖書にはそれ以降の出現について何も記されていません。イエスが次々と現れた激動の一日の後、その間の6日間の沈黙は弟子たちを混乱させたかもしれません。弟子たちはまだ、イエスが共にいるかどうかは、イエスを見るかどうかに左右されないということを受け入れられていなかったのです。いずれにせよ、この沈黙は特にトマスに悪影響を及ぼしたようです。

一週間前の日曜日の夕方、イエスが全員の前に現れた時、トマスはそこにいませんでした。彼はその話を聞くのにうんざりしていたに違いありません。イエスは、イエスが肉体的に生きていることを確認するために、その場にいた人々に、イエスの手、足、わき腹を注意深く観察し、さらには触れるように命じました。トマスは、他の弟子たちがイエスが再び完全に身を委ねる前に受けたのと同じ確信を、彼らと同じようにイエスから望むことは、不合理ではないと考えました。

トマスは「全か無か」というタイプの人間でした。ほんの数ヶ月前、イエスがペレアを離れ、ラザロを死から蘇らせるためにベタニアへ向かうとしていた時、トマスは「私たちも行って、彼と共に死のう」と言いました。トマスはすべての希望をイエスに託し、イエスの御国が来るのを見るためにすべてを危険にさらす覚悟でした。イエスに対する暗殺の陰謀がイエス逮捕へと発展した時、聖書に記されているように、イエスはダビデのように復活し、敵を滅ぼすと確信していました。

イエスの苦しみと死は、トマスの主への信仰、そして彼自身への信仰をも破壊しました。ダニエルの「人の子」であり、ダビデの子でもあった御子に、神はどうしてこのようなことが起こるようにされたのでしょうか。トマスはどうしてイエスについてこれほど誤った考えを持っていたのでしょうか。

聖書の最も基本的な真理とイエスの正体について、自分がいかに間違っていたかを悟った後、トマスは容易に信仰を取り戻そうとはしませんでした。彼はそういう人間ではありませんでした。彼の献身の度合いはあまりにも高すぎたのです。

イエスがトマスに「**不信者になるのはやめなさい**」と命じた言葉を英語に翻訳するのは難しい。トマスには信じる理由があった――イエスが本当に生きていることを示すあらゆる証拠を鑑みれば、信じる傾向があった――しかし、彼は再び身を捧げることをためらっていた、というのがその解釈だ。彼は既に誤った認識によってひどい傷を負っていたため、教訓を得ていた。彼は再び軽々しく全力を尽くすつもりはなかった。二度と過ちを犯さないという確固たる証拠が必要だった。だから彼は身を引いたのだ。

イエスの六度目の出現は、そこにいたすべての弟子たちへのものでしたが、特にトマスのために行われました。イエスはトマスに、ご自身の復活を信じることは、聖書の誤った誤解や誤解ではないことを理解してほしいのです。むしろその逆でした。イエスの贖いの死と肉体の復活への信仰こそが、聖書のメッセージの核心であり、イエスが示した「**多くの確かな証拠**」は、トマスの完全な信仰を正当化するのに十分以上のものでした。トマスには、信じられないほど喜ばしい福音を信じることをためらう理由はもはやありませんでした。

トマスは、聖書全体の中で最も力強い告白をもってイエスを崇拝することで応えました。トマスはイエスを面と向かってYHWH（「我が主」の意）と呼び、自分の神と呼びました。まさにトマスは「全か無か」の人でした。イエスを自分の神として完全に受け入れた彼の姿勢は素晴らしく、聖書が示すイエスを信じるとはどういうことかを示す最良の例でした。

なぜトマスの経験と模範はそれほど重要なのでしょうか。それは、私たち皆がイエスを信じる前に、トマスが受けたようにイエスの物理的な出現を求めるべきだからではありません。むしろその逆です。トマスが目にした聖書と歴史的証拠は、彼を信じさせるのに十分でした。彼は復活したイエスを信じたいという自然な衝動を抑えなければなりませんでした。これは、聖書と証拠を誠実に考察するすべての人に当てはまります。真実は説得力を持つのです。

イエスの命令は、自分が本当に死から蘇ったという内なる確信と戦うのをやめ、イエスの死と復活が、イエスが偉大なる「我あり」――ヤハウェ――生ける神であり、天地の創造主であることを証明していると信じることです。トマスのような極端で「全が無か」の性格の人にとって、その証拠は十分であったように、世界中のすべての人にとっても同様に十分です。イエスはすべての人々に、信じたいという願いと戦うのをやめ、信じ始めるように命じています。使徒パウロはそれを次のように説明しています。

**「神は今、すべての民に悔い改めるように命じておられます。神は、ご自身が任命した人によって、この世界を正義によって裁く日を定めておられます。神は、その人を死者の中から復活させることによって、すべての民にその証拠をお与えになったのです。」使徒言行録17章30節～31節**

イエスが生きておられ、神であり人であるとしてイエスが主張された通りの御方であると信じる者は、この生涯を通して、信仰によって「イエスを見る」という、言葉では言い表せない祝福を受けます。それは、私たちがイエスの似姿にますます従い、愛と喜びと平和の中で三位一体の神とのより親密な交わりを深めていく中で、私たちが成長していくにつれて起こります。そして、天国で初めてイエスと対面し、実際にイエスを見るという最高の栄光を得るのです。今、イエスと交わる中で――肉体的にイエスを見ることはできない時――すべての瞬間は、後にイエスの真の姿を見る時、何倍にも意味と栄光に満ちたものとなるでしょう。

これは、復活したイエスを一度も見ることなく、聖書と、イエスがこの人生における主であり神であるという証拠から信じる人々に与えられる特別な祝福です。

応用：

聖書に記されたイエスの生涯の物語 – これまで 339 回の DAILY JESUS NEWS 朗読で私たちが追ってきたもの – は、私たち一人一人を、トマスのように、私たちの主であり神であるイエスに全力で従い、イエスの聖霊によって私たちの中にあるイエスの永遠の命の充滿を毎日継続的に経験するように導くためのものです。

イエスは、私たちが想像できる以上に生き生きとしています。毎ナノ秒ごとに全宇宙に命を吹き込み、その生命力によってすべてを支えています。イエスは御霊によって私たちの内に生きておられるので、私たち一人ひとりの内には、無から宇宙を創造するのに要した以上の力が宿っています。イエスは、永遠に続く限り、毎秒ごとに無から新たな宇宙を創造するほどの力を持っておられ、その過程で一瞬たりとも疲労や緊張を感じることはありません。これが私たちの神です。

これこそ、イエスの復活によって示された力であり、私たちの中に生き、私たちの弱さの中で完成される力です。ハレルヤ！

あなたは、トマスのように、イエスを自分の主、神として信仰を告白しましたか？

あなたは、あなたの主であり神である神に対して、全力で、一切の制限なく献身していますか？